

平成29年度 第1回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：平成29年7月18日（火）13：30～15：40

場所：市役所 A棟203～204会議室

出席者：佐々木会長、林（会長職務代理）、下平委員、伊藤（貴）委員、森下委員、中島委員、
梶川委員、西塚委員、上河内委員、北原委員、小林委員、中山委員、原委員
佐藤行財政改革推進本部本部長、伊藤総務部長、櫻井財政課長、原田人事課長
串原企画課長、事務局

欠席者：伊藤（力）

辞令交付 下平委員、伊藤（貴）委員、原委員 授与者：佐藤本部長

1 開会（伊藤総務部長）

2 あいさつ

（佐藤本部長）

新しく委員に任命させていただいた3名の皆さんにはこれから宜しくお願ひしたい。

昨年度は新たな行革大綱について審議いただき、4月から新行革大綱に基づく取組がスタートしている。これまでは量的削減（主に職員数を減らす、予算を小さくする）を重点に取組を進めたが、新行革大綱ではこれまでの取組を継続しながら、それに加えて市民の力を総動員することで、横の連携、組織内の活性化などに取り組んでいく。

本日、意見交換の中では市役所職員の仕事ぶりなど日頃思っていることについてご意見をいただく。行革の取組の中で市役所組織の働き方について問題意識をもっており、委員の皆さんからの意見を参考にさせていただきたいと考えている。

今後、4年間の行革大綱及び実行計画の取組について、委員の皆さんからのご指摘、ご指導を宜しくお願ひしたい。

（佐々木会長）

昨年度は新行革大綱の策定に向け、幅広い観点で委員の皆さんから意見、提案をいただいた。今年度は実行計画の取組内容、状況等について確認していきたい。

行財政改革推進委員会は、市民目線で行財政をチェックすることが役割であり、委員の皆さんには幅広い観点で意見をいただきたい。

3 会長職務代理者（副会長）の選任

会長指名により、「林邦夫」委員を選任

4 協議事項

（1）平成29年度指定管理者協定期間終了施設の実績評価に対する意見徴収について

①飯田市民プール及び飯田運動公園プール（アクアパーク I I D A）

（北澤生涯・学習スポーツ課長）

（小林委員）

公募ということであるが、前回の応募者数はどのくらいあったのか。

（北澤生涯・学習スポーツ課長）

→前回（平成25年度）は、現指定管理者を含め2社の応募があった。

（中山委員）

指定管理導入の目的に「利用者の利便性の向上と安全の確保」とあり、「利用者の利便性の向上」はアンケート結果で確認できるが、「安全の確保」はどのように確認しているのか。

(北澤生涯・学習スポーツ課長)

→毎年、指定管理者にチェック表を提出してもらい、市担当者と指定管理者で確認している。

(佐々木会長)

過去、他施設にて排水溝に吸い込まれるなどの重大事故がおきているが、飯田市として対策はしているのか。

(北澤生涯・学習スポーツ課長)

→多くの事故事例の情報を指定管理者がもっており、それらの情報を基に安全対策などの検討、研修等を実施し、市の担当者も参加している。

(林委員)

年々、施設利用料等の収入が増加しているが、指定管理導入による効果と考えて良いのか。

(北澤生涯・学習スポーツ課長)

→市が指定管理の導入に際して想定した利用料収入を上回っており、指定管理者もイベント、新たな企画を行うなど努力しており、指定管理導入の効果があったと考えている。

(伊藤(貴)委員)

指定管理を導入してから黒字化しているが、公の施設として儲けを考えないことが基本にあると思う。今後、黒字部分について指定管理委託料を下げる又は修繕費にあてるなどの考えはあるのか。

(北澤生涯・学習スポーツ課長)

→安全・安心を目的とした施設であるため、維持管理に必要な部分に充てていきたい。

(原委員)

今後の課題として、施設の老朽化とあるが具体的にどの部分か。

(北澤生涯・学習スポーツ課長)

→ポンプ類やろ過機など施設の内部機器が老朽化している。

(梶川委員)

アンケート回答者数とアンケートの質問内容はどのようなものか。

(北澤生涯・学習スポーツ課長)

→指定管理者が実施したアンケート回答数は、飯田運動公園プールが77件、飯田市営市民プールが20件であった。質問の主な内容は、施設の清潔感、スタッフの対応、その他である。

(梶川委員)→意見

利用者の利便性の向上、安全の確保を図るために、PDCA(計画・実行・評価・改善)サイクルを大切に、アンケートの手法等を検討してほしい。

②上村まつり伝承館「天伯」、上村山村ふるさと保存館「ねぎや」(飯島副館長)

(小林委員)→意見

指定管理者は地域の組織である(株)上村振興公社に依頼していく方向と思うが、(株)上村振興公社の経営状況等については外部監査等によりきちんと確認していくことも大切である。

③飯田市天龍峡温泉交流館(ごっ湯くり)

(林委員)→意見

平成28年度の大規模改築にかかった費用はいくらか。

(池野専門幹)

→総額で約2億8千万円の費用がかかっている。

(林委員)→意見

施設改修により新しい施設による運営となってから利用客も順調と聞いている。投資効果など全体がわかるような形で情報発信してほしい。

(中山委員)

指定管理導入の目的の中に「市民サービスの向上と経費の削減を図る」があるが、市民サービスの向上の観点から、利用者数の内訳をお聞きしたい。また、今後、アンケート調査をするなど考えているのか。

(池野専門幹)

→利用者数の内訳の集計はないが、聞き取りによると半数が地元の方である。地元は会員権を持っている方がいるため、平日は地元、休日は市外の利用が多い状況となっている。

アンケートは4月のオープンから実施しており、今後、アンケート等の意見をもとに更なる対応を指定管理者と考えていきたい。

(佐々木会長)

他の店への影響を考慮しているのか宣伝が地味な感じがする。もっとPRしたほうがよいのではないか。

(池野専門幹)

→ホームページやパンフレット等配布により宣伝はしているが、まだ、全国的には配信していないため今後PR方法については検討していきたい。

④飯田市上村ディサービスセンター

(佐々木会長)

施設の経営状況は「良い」と説明があったが、市内の類似施設と比べてどのくらい良いのか。

(原長寿支援課長)

→類似施設との比較は難しいが遠山地区で数少ない施設であり、市としては、施設が健全に管理運営され、サービスが維持されることが重要であると考えている。指定管理者の努力により、人材を確保し多くの住民の皆さんに利用されていることは高く評価している。

(上河内委員)→意見

利用者数が想定よりはるかに増加している状況から地域ニーズがあったと感じる。このように指定管理者の努力により市民ニーズに対応している事例を市としても活かしてほしい。

(中山委員)

高齢者が安心して利用していただくためには、まずは安全が大事であると思う。安全に対する評価を教えてください。

(原長寿支援課長)

→施設面では、市として適切なメンテナンスを実施し管理を行っている。

指定管理者は、運営にあたりマニュアルを定め、職員の教育等を行い安全管理に努めている。安全管理の評価については、毎年の実績評価で確認をしている。

5 意見交換

○市役所の職員および業務について日頃感じていること

(小林委員)→意見

他の市町村と比べて飯田市の職員は士気が高く良いと感じている。しかし、今回の委員会で説明していただいた内容や市長から年頭所感等で発表している事項について、どれだけの市民に浸透しているか疑問がある。市から多くの方針が出されるが市民に全てが浸透していないのではないか。

市が色々な取組を行っているわりには市民の協力が少ないように感じる。市民に浸透するような対策を考えていただきたい。

(梶川委員)

青年会議所としては、「明るい豊かな社会の実現」に向けて活動している。その上で地域のために新たな事業を展開していくが、青年会議所だけではできない面もあり、行政にも協力を求めることもある。その際は熱心に市も協力してくれていると思う。

行政という窓口だけでなく、個人レベル（市職員として）でも地域の行事等に積極的な参加をお願いしたい。

(林委員)

県内の信用金庫の会議で話を聞く中では、飯田市の職員は他の自治体よりも意欲、熱意を持っており、前向きに取り組んでいると感じる。

行政のムリ・ムダ・ムラについては外からみるとわかりにくいですが、例えば、K P I（重要業績評価指標）等でP D C A（計画・実行・評価・改善）を求められるが、逆にP D C Aの管理の部分にコストを振り向けるとムダがあるのではないかと。

目的を意識しないと管理のための管理になりそこにムダが発生してくると思われる。

それぞれの取組において、リニア開通などを踏まえた市の将来ビジョンをたえず忘れないようにしてほしい。実現するための手段が目的になると手段を達成するためには目的部分が考慮されてしまうため、最初の目的を忘れないようにすることが大切である。

K P I等の指標にこだわりすぎるとつじつま合わせになってしまう。

現在の1市13町村の体制がいつまで維持できるのか。環境変化にもよるが、飯田市は飯伊地域全体の自治体としての役割も担っているおり、将来を見据えたスタンスを持ってほしい。

(下平委員)

先日、老人クラブの会合で、市役所の3階の会議で時間外に出入口が施錠された際、職員がすぐに来て対応してくれた話を伝えたら、全員が「市の職員の対応がやさしくなった」と言っていた。

(伊藤（貴）委員)

市の職員数について、単に職員数を減らすことだけを考えないようにしていただきたい。現在、自分の会社においても専門分野の人材の確保が非常に厳しい状況である。

今後、単に人数だけを減らすと必要な時に人材確保ができない。少子高齢化が進めば、更なる看護師不足などが懸念される。人材は常に確保していただきたい。

人数を確保するためには給与をさげてるなどの対応も考えていただきたい。

観光面におけるP Rが個々の施設で実施されているが、連携して色々な施設を組み入れてP Rしたらどうか。1つの施設で多くの施設情報が見られる形も考えてはどうか。

(中山委員)

東日本の大震災、熊本の地震などを見ると災害時の備えが重要である。特に、高齢者、障害者、母子家庭などが声をあげられず避難所等で辛い生活を送ったと聞いており、弱者への対応の検討を考えてほしい。職場(短大)においても、災害時の対応について検討している部署もあり市と連携していきたい。

母子に関しては、現在、出産は市立病院しか対応できないため、災害時に多くの患者が集中し、病院機能がパンクしてしまう恐れがある。こういう状況への対応を検討する必要があり、どの部署で検討するのか教えてほしい。

短大における実習で市の医療職を招くことがあるが、教員や学生に高圧的な態度をとる職員がいる。学生に対して市の医療職の悪いイメージがついてしまう。保健師、看護師をめざす学生もいるので、職員に対して教育をしてほしい。

(上河内委員)

雪かきをしている臨時職員の女性が笑顔であいさつをしてくれて元気づけられた。その時に人も環境の一つだと思った。市の職員の一人ひとりが笑顔、市民一人ひとりを大事にすることで市にとって大きな財産になると思う。

(西塚委員)

市の職員がきちんと挨拶ができることが大事である。庁舎を訪れた時に挨拶する職員としない職員がいるが、挨拶されると市民も気持ち良く感じる。

市民意識調査をみると、「行政サービスにあたる市役所職員の対応に満足している」割合は上がっているが、「市役所を信頼できていると感じている市民の割合」は下がっている。この差はどういことなのか。

(原委員)

西塚委員が言われたとおり、市民意識調査の結果を説明していただきたい。

最近、市役所に来る機会が多くなったが、窓口対応している職員は親切であった。市民は窓口対応している職員以外にも目線に入っており、いつも見られていることを意識してほしい。

地域コミュニティーの機能であるが、65歳を過ぎても働く方が多くなり、まちづくり委員会でも委員の担い手不足となっている。組合の加入者も減る中で、地域の活動をどうしたらいいか、市も一緒になって考えほしい。

(中島委員)

職員の人数を減らすことも大事であるが、必要な人数は確保していただきたい。

市の職員も市民であるため、業務だけでなく、地域に帰っても市のことを考えて活動していくことが大事である。

(森下委員)

小学生、中学生、高校生と料理教室などを通じて話をする中で、子供たちは素直で、飯田の子育て環境はとても良いと感じている。

(北原委員)

市の職員と色々な活動を共にする中で、市民に対する行政の意識的なレベルの高さは評価している。しかし、それがすべての市民に浸透している訳ではないと思う。

地区においても役員の担い手が不足している中で、市の職員で役員を引き受け、長年地域で活動してくれている職員がおり、大変素晴らしいと感じている。

全ての職員が仕事だけでなく、地域に帰ってから地域活動に積極的に参加していただきたい。

(佐々木会長)

1%戦略について「もっと良くする改革推進委員会」は構成メンバーが課長等であるが、取組としては、下からの底上げが必要であり、若手職員からの意見が汲み取れる仕組みが必要であると感じる。

指定管理者制度、民営化により経費の削減はでき職員の事務軽減になっているかと思うが実際に業務量が減ると、職員のやる気を無くしてしまう恐れもあり、異動の方法、事務の分担等を検討していく必要があるのではないかと。

地域の高齢化、担い手不足の中で地域との関連を深めるため、職員が地域活動参加する職員ボランティア休暇制度を提案したい。

(伊藤総務部長)

→貴重なご意見、職員に対しての激励のことば、ご指摘をいただきをありがとうございます。職員の地域活動への積極的な参加については、行革大綱の中でも行政の基本姿勢としており今後も取組を進めていきたい。

職員数についても、病院は医療職であるため必要な人員として増加してきているが、事務職は相当削減してきている。4月には、第6次人員適正化基本方針が終了し目標800人だったところを792人まで減らしてきた。上郷、上村、南信濃の合併で、20年前から削減し当時より200人余り減らしてきている。委員の皆さんからもご意見いただきましたが、今後、リニア等の行政課題を踏まえると削減が難しい状況である。

市民意識調査については、2千人にアンケートを送付し、約千人の方から回答をいただいている。職員の対応と、行政の信頼性については、10年前からは右肩上がりである。H28年度時の差については分析はできていない状況である。

1%戦略については、委員構成は部課長等であるが、各職場での議論を進める中で、若手から改善提案が出来るような仕組みも検討していきたいと考えている。

(原委員)

市民意識調査は、どの部署で実施しているのか。民間等に委託しているのか。

(伊藤総務部長)

→秘書課で実施している。

6 その他

- ・第1回推進委員会議事録について
- ・報酬及び旅費について

(佐藤本部長)

本日は長時間にわたり様々な意見をいただき有難うございました。指定管理実績評価については丁寧に議論していただき感謝している。また、市役所職員に対する意見、ご指摘等については職員と共有し取組に活かしていきたいと思えます。

本日はありがとうございます。

7 閉会